

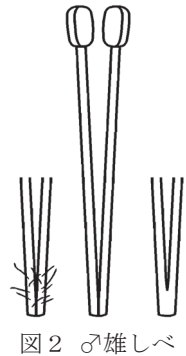
オオキツネヤナギ *Salix futura* Seemen ♂▲
◀ 図1 雄花穂

図2 雄しべ

《手順1》筆者が参加した5月中旬のバス観察会で、ついたバスを下車したすぐ横にヤナギの雄株をみる(図1)。個人的には今回訪問の目的であったオオキツネヤナギ(野生状態のものはまだ未見である)ではないかとワクワクしていると、女性が「バッコヤナギね」といいながら撮影して行き、バッコヤナギは普通にみられて特に珍しくはないため、私の思いは軽くいなされて、「・・・」と絶句。気を取り直して花穂を2個採集。(オオキツネヤナギとバッコヤナギの雄花穂は、両者を並べて比較すると多少の違いがあるのだろうが、採集した時期によっても刻々と変化があるため、花の段階で種を決めることはなかなか難しい)

《手順2》雄株の花穂は苞や腺体や葯などの形状・色具合・毛の様子など、オオキツネヤナギもバッコヤナギも明快な区別点がなく、花糸の基部が合着しているか否か(図2)、花糸の基部が有毛か無毛かなどが異なるようであるが、帰宅後花穂を分解し精査したところ、花糸基部が合着しておりオオキツネヤナギの期待が持てたが、変異の範囲とも考えられるため確実な同定とはし難く、葉の展開している時期(ひと月程後)に再訪することとした。(バッコヤナギは花糸が基部まで分離して有毛、オオキツネヤナギは基部が合着して無毛というのが定説であるが、ヤナギ属はまだ充分研究されているわけではなく、実際は定説と異なる事例が多々あり鵜呑みにはできないと考える)

《手順3》6月中旬に再訪し、まだ若い段階ではあったが新枝部分を採集して帰宅後に葉を確認した。葉裏の毛の状態は、バッコヤナギは縮毛が著しく、これに比べるとオオキツネヤナギの方が毛が少なく、充分成長した葉では区別が難しくない。今回の葉はまだ若いため注意を要したがバッコヤナギよりは縮毛が少なく、オオキツネヤナギと同定ができた。筆者にとって野生状態のオオキツネヤナギとの出会いは初めてであった。(葉裏の毛は、筆者は手元に栽培品のサンプルがあったため、これとの比較で判定は容易であったが、サンプルのない段階では、葉裏の確認は季節が遅い方が毛の量にはっきり差が出るので具合がよい)

《後日談》6月末にヤナギ以外の植物の関係で、三度目の現地訪問をしたのだが、駐車場の際にあつたオオキツネヤナギがみあたらない。まさかオオキツネに化かされたわけでもあるまいに？。

付近を探したところ枯れ枝葉が散在しているのに気が付き、手に取り枯葉を調べるとまさにオオキツネヤナギの葉であった。さては・・・、切株から十本ほどの短い切られた枝があり、恐らく根が残っていて、少し樹が大きくなると地上部が刈り取られることの繰り返しなのかも知れない。筆者は今後の調査研究のための貴重な野生株と考えていたので、ショックを受けながら今日目的の他の植物生育地に向かった。帰路を急ぐうち、駐車場に至る少し前あたりで、ふとみるとバッコヤナギとは少し異なるヤナギが目に入る。何とオオキツネヤナギである。時間の関係でじっくり点検できなかったが数株は点在しておりもっと多くあったかもしれない。三度も訪問したことに対し、神様はやはり見捨てはしなかったようで、至福の気持ちを抱いて帰宅した。最初の訪問である観察会当日のバッコヤナギとしたものは、オオキツネヤナギが含まれていたことに成る。(2012/7/2 山口純一)